

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/01/04.

### 「リスク・オン」が続くか見極め

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↑	利下げ観測がくすぶる中CPIに注目 予想レンジ: 87.50 ~ 96.50 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↑	利下げ観測はほとんど織り込まれず 予想レンジ: 69.20 ~ 76.20 円	4-5
<u>ランド/円</u>	↑	SARBも声明に注目 予想レンジ: 9.60 ~ 11.00 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



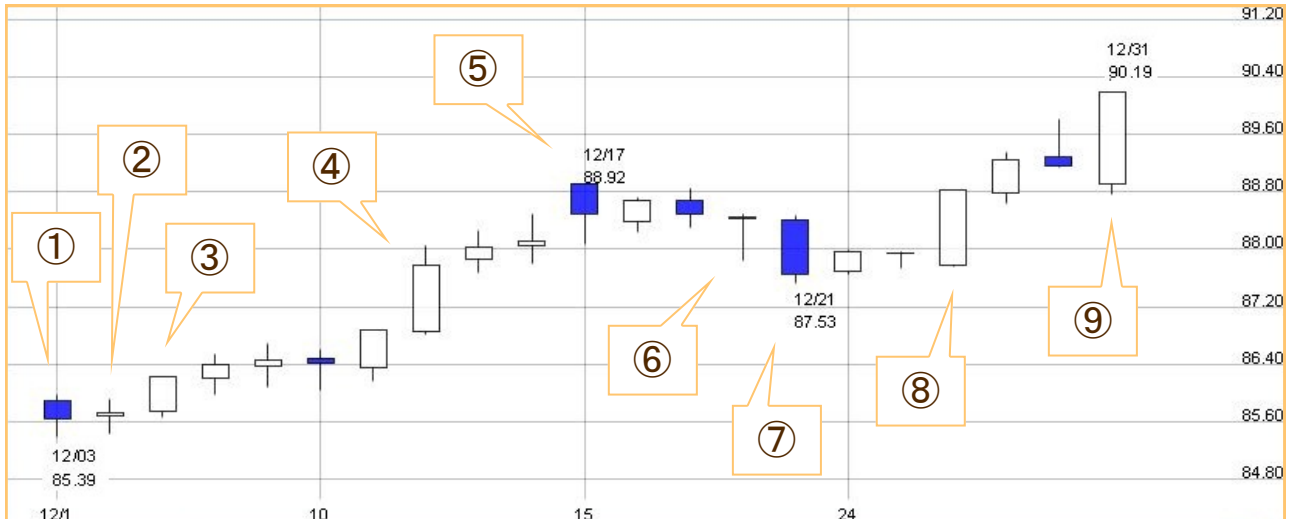
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	85.89円	90.19円	85.39円	90.19円



- ① 3日、豪10月小売売上高が前月比±0.0%と予想(+0.4%)を下回った事が嫌気され、豪ドル/円は発表前の水準から40銭以上下落。ただ、中国11月非製造業PMIが50.5(予想:50.4)となった他、日経平均株価の堅調推移を受けて、次第に下げ幅を縮小した。
- ② 4日、豪準備銀行(RBA)は理事会で、政策金利を0.25%引き下げて過去最低の3.00%にする事を決定した。直後は豪ドル売りで反応したが、利下げがある程度織り込まれていた事もあり、下押しは限定的。声明文は「緩和的な政策が奏功し始めた兆候がある」「今後1-2年のインフレ率は目標の範囲に留まる見通し」等、追加利下げを示唆する内容ではなかった。これを受けて買い戻しが優勢となった。
- ③ 5日、中国政府による経済対策への期待から上海株が急騰すると、豪ドル/円は86.21円まで値を上げた。なお、第3四半期豪国内総生産(GDP)は前期比+0.5%、前年比+3.1%とほぼ市場予想通り(+0.6%、+3.1%)となったため、反応は限られた。
- ④ 12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、「失業率が6.5%、インフレ率が2.5%以下の状態では低金利を正当化する」と伝わると、直後の市場はドル売りで反応。これを受けて豪ドル/米ドルが急騰すると、豪ドル/円は88.06円まで上昇した。
- ⑤ 17日、前週16日に行われた本邦衆院選で自民・公明が325議席を獲得し、議員定数(480議席)の2/3を突破。これを受けて円売りが強まると、豪ドル/円は取引開始直後に88.92円の高値をつけた。
- ⑥ 20日、米「財政の崖」問題について、「ホワイトハウスは財界トップに財政協議が後退していると伝えた」との報道が嫌気され、リスク回避の動きが強まると豪ドルは急落。なおスワン豪財務相が「税収の落ち込みを理由に2012年度中の財政黒字化目標を事実上断念する」と発言したが、反応は薄かった。
- ⑦ 21日、米共和党のベイナー下院議長が提案した減税延長法案について、下院共和党の支持が得られず、採決を断念してクリスマス明けまで下院を休会にすると発表。「財政の崖」回避の先送り嫌気され、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が下落すると、豪ドル/円は約80銭急落した。
- ⑧ 26日、日銀金融政策決定会合議事要旨が公表され、無期限の金融緩和について1人の委員が提案するなど、市場が予想していたよりもハト派的内容であった。仲値公示に向けた円売りや安倍新政権の誕生、NY市場での株高や原油相場の高止まりもあり、豪ドル/円は堅調に推移した。
- ⑨ 31日、「『財政の崖』回避に向けたバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務との協議は進展している」との報道を好感して株価が上昇。豪ドル/円は2008年9月以来となる90.19円を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

12月の豪ドル/円相場は85.39円～90.19円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.8%の上昇(豪ドル高・円安)となった。安倍新政権への期待を背景とする円安の進行や、米「財政の崖」回避期待を背景に、豪ドル/円は2008年9月以来の水準まで上昇した。

1月の豪ドル/円相場は、ひとまず米「財政の崖」が回避されたことで目先の不安材料が後退する中、安倍政権による「リフレ政策期待」がどこまで続くかに注目したい。今月もこの2つが機能するのであれば、豪ドル/円相場は上値模索の動きを続けると見る。ただし、どちらか1つでも機能しなくなるようならば、約4年ぶり高値水準に位置する豪ドル/円は利食い売りに押される事も考えられる。

また、豪州では第4四半期消費者物価指数(CPI)の発表が予定されている。昨年12月の政策金利発表時の声明で「今後1-2年のインフレ率は目標(年2~3%)の範囲に留まる見通し」と言及しており、今回のCPIが予想を上回るようであれば、金利先物市場でくすぶっている追加利下げ観測が後退して豪ドルが買われる展開が予想される。ただし、市場関係者の間では豪州景気に慎重な見方が多く、それが金利先物市場で反映されている事を考えると、インフレ率が予想を下回る場合は次回2月のRBA理事会での追加利下げ観測浮上もありえる。(川畑)

(予想レンジ:87.50~96.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

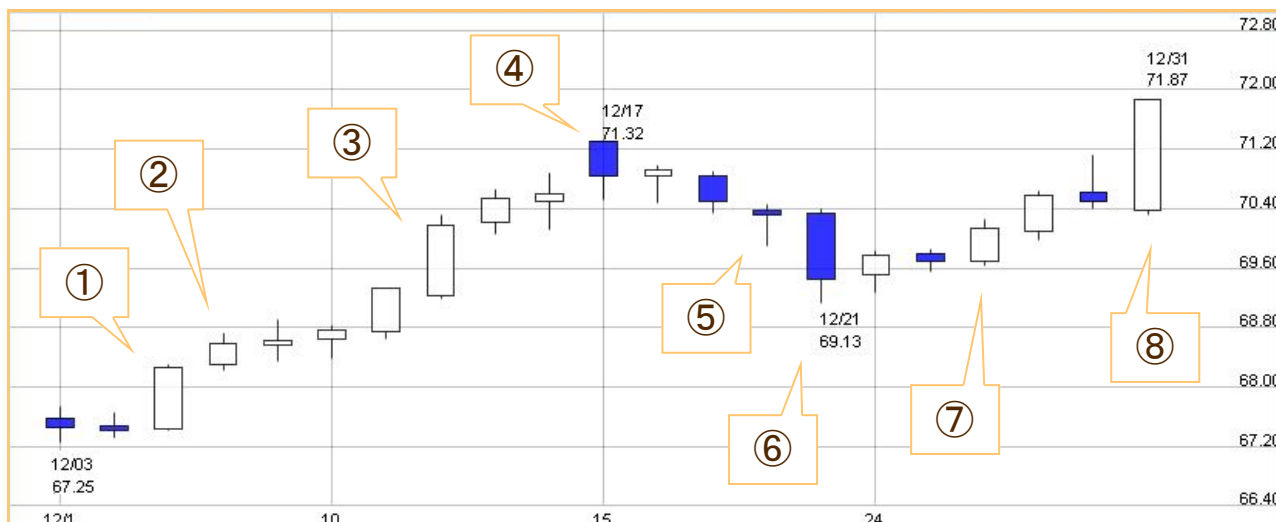
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(火)	12月中国製造業PMI	1/16(水)	12月米消費者物価指数
1/2(水)	12月米ISM製造業景況指数	1/17(木)	12月豪雇用統計
1/3(木)	12月米ADP全国雇用者数	1/18(金)	第4四半期豪輸入物価指数
1/4(金)	12月米雇用統計		第4四半期中国実質GDP
	12月米ISM非製造業景況指数		12月中国小売売上高
1/8(火)	11月豪貿易収支		1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
1/9(水)	12月豪小売売上高	1/21(月)	第4四半期豪生産者物価指数
1/10-13	12月中国貿易収支	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/10(木)	11月豪住宅建設許可件数	1/23(水)	第4四半期豪消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表	1/24(木)	12月日通関ベース貿易収支
1/11(金)	11月日貿易収支		1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	12月中国消費者物価指数	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
1/15(火)	12月米小売売上高		米FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## NZドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	67.58	71.87円	67.25円	71.86円



- ① 5日、中国政府による経済対策への期待から上海株が急騰すると、NZドル/円は上昇した。北朝鮮が10-12日にミサイルを発射する公算であるとの報道を受け、地政学的リスクから円が売られた事も上昇を後押しした模様。その後オバマ米大統領が「共和党が動けば、『財政の崖』は1週間で解決できる」と発言し、NYダウ平均株価が上昇すると、NZドル/円は一段高となった。
- ② 6日、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを決定。声明文で「来年以降の2年間の経済成長率(GDP)は年率2.5~3%に加速」と指摘。インフレ率もRBNZの目標である2%(中央値)に向けて上昇するとの見方を示した事を手掛かりに、NZドル買いが優勢となった。
- ③ 12日、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の声明で、「失業率が6.5%、インフレ率が2.5%以下の状態では低金利を正当化する」とした事は予想外であり、直後の市場はドル売りで反応を示したため、NZドル/米ドルが急騰。NYダウ平均株価の上昇も重なり、NZドル/円は70.31円まで上昇した。
- ④ 17日、前週16日に行われた本邦衆院選で自民・公明が325議席を獲得し、議員定数(480議席)の2/3を突破。これを受けて円売りが強まると、NZドル/円は取引開始直後に71.32円まで上昇した。
- ⑤ 20日、NZ第3四半期GDPが前期比+0.2%、前年比+2.5%と予想(+0.4%、+2.5%)を下回った。これを嫌気して、NZドル/円は取引開始直後に69.90円まで急落した。
- ⑥ 21日、米共和党のペイナー下院議長が提案した減税延長法案について、下院共和党の支持が得られず、採決を断念してクリスマス明けまで下院を休会にすると発表。「財政の崖」回避の先送りが嫌気され、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が下落すると、69.13円まで値を下げた。
- ⑦ 26日、日銀金融政策決定会合議事要旨が公表され、無期限の金融緩和について1人の委員が提案するなど、市場が予想していたよりもハト派的内容であった。仲値公示に向けた円売りや安倍新政権の誕生、NY市場での株高や原油相場の高止まりもあり、NZドル/円は堅調に推移した。
- ⑧ 31日、「『財政の崖』回避に向けたバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務との協議は進展している」と報じられた。これを受けて崖回避への期待が高まると、NZドル/円は2008年10月以来となる71.87円まで上昇した。



## NZD / JPY

## 今月のポイント

12月のNZドル/円相場は67.25円～71.87円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.2%の上昇(NZドル高・円安)となった。安倍新政権への期待を背景とする円安の進行や、米「財政の崖」回避期待を背景に、NZドル/円は2008年10月以来となる水準まで上昇した。

今月はひとまず米「財政の崖」が回避された事で、リスクを積極的に取る機運が高まりやすい中、安倍政権による「リフレ政策期待」がどこまで続くかに注目したい。この2つが機能している間、NZドル/円は買われやすい展開が続くと見る。ただし、どちらか1つでも機能しなくなるようならば、リーマンショック後の高値を更新しているNZドル/円相場は利食い売りに押されて急落する事も考えられる。

一方、NZでは金融政策の発表が予定されている。昨年12月の声明を見る限り、内外の景気下振れリスクに対する警戒感は後退しており、当面は現在の政策金利を据え置くと見られる。仮に据え置きとなる場合、市場の関心は声明文に集まりそうだ。中国や米国経済の回復やNZの震災復興需要の本格化を背景に利上げ開始時期(2013年半ば～後半)を前倒しするとの見方が強まれば、NZドル/円は買いが優勢となろう。NZドル相場を左右する要因として、NZ国内の経済指標より、米国や中国のその影響がより大きい事を考えると、米中の経済指標にも注意したい。(川畑)

(予想レンジ:69.20～76.20円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

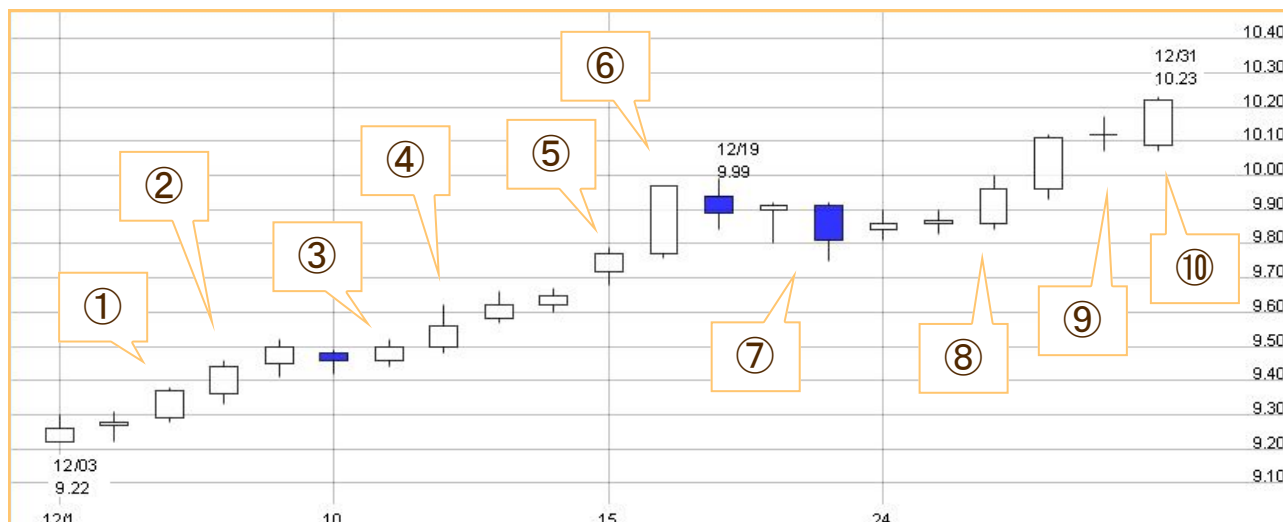
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(火)	12月中国製造業PMI	1/16(水)	12月米消費者物価指数
1/2(水)	12月米ISM製造業景況指数	1/17(木)	第4四半期NZ消費者物価
1/3(木)	12月米ADP全国雇用者数	1/18(金)	第4四半期中国実質GDP
1/4(金)	12月米雇用統計		12月中国小売売上高
	12月米ISM非製造業景況指数		1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	欧州中銀金融政策発表	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/8(火)	11月NZ住宅建設許可	1/24(木)	12月日通関ベース貿易収支
1/9(水)	11月NZ貿易収支		1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
1/10-13	12月中国貿易収支	1/28(月)	12月NZ貿易収支
1/10(木)	欧州中銀金融政策発表	1/29(火)	12月NZ住宅建設許可
1/11(金)	11月日貿易収支	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
	12月中国消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
1/15(火)	12月米小売売上高		RBNZオフィシャル・キャッシュレートの

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# ZAR/JPY

## ランド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.22円	10.23円	9.22円	10.22円



- ① 5日、中国政府による経済対策への期待から上海株が急騰すると、ランド/円は上昇した。北朝鮮が10-12日にミサイルを発射する公算であるとの報道を受け、地政学的リスクから円が売られた事も上昇を後押しした模様。その後オバマ米大統領が「共和党が動けば、『財政の崖』は1週間で解決できる」と発言し、NYダウ平均株価が上昇すると、ランド/円は一段高となった。
- ② 6日、南ア7-9月期経常収支が2025億ランドの赤字と予想(2125億ランドの赤字)よりも赤字幅が縮小した。これを好感してランド/円は買いが優勢となった。
- ③ 11日、南ア10月小売売上高が前年比+1.0%と予想(+4.0%)を下回ったものの、ランド/円相場の反応は薄かった。
- ④ 12日、南ア11月消費者物価指数は市場予想通り前年比+5.6%となったが、市場の反応は限定的であった。
- ⑤ 17日、前週16日に行われた本邦衆院選で自民・公明が325議席を獲得し、議員定数(480議席)の2/3を突破する大勝となった。これを受けて円売りが強まると、ランド/円は堅調に推移した。
- ⑥ 18日、米国の「財政の崖」回避期待からNYダウ平均株価が上昇し、リスクを積極的に取る機運が高まると、ランド/円は大きく値を上げた。
- ⑦ 21日、米共和党のベイナー下院議長が提案した減税延長法案について、下院共和党の支持が得られず、採決を断念してクリスマス明けまで下院を休会にすると発表。「財政の崖」回避の先送り嫌気され、時間外のNYダウ平均先物や欧州株が下落すると、9.75円まで続落した。
- ⑧ 26日、日銀金融政策決定会合議事要旨が公表され、無期限の金融緩和について1人の委員が提案するなど、市場が予想していたよりもハト派的内容であった。仲値公示に向けた円売りや安倍新政権の誕生、NY市場での株高や原油相場の高止まりもあり、ランド/円は堅調に推移した。
- ⑨ 28日、南ア11月貿易収支は79億ランドの赤字と予想(176億ランドの赤字)より赤字幅が縮小したが、市場の反応は薄かった。
- ⑩ 31日、「『財政の崖』回避に向けたバイデン副大統領と共和党のマコネル上院院内総務との協議は進展している」と報じられた。これを受けて崖回避への期待が高まると、ランド/円は5月以来となる10.23円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

12月のランド/円相場は9.22円～10.23円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約10.2%の上昇(ランド高・円安)となった。安倍新政権への期待を背景とする円安の進行や、米「財政の崖」回避期待を背景にリスクを積極的に取る機運が高まると、ランド/円は約7か月ぶりに10円の大台を回復した。

ひとまず米「財政の崖」が回避されたことで、市場は「リスク・オン」に傾きやすい中、今月は安倍政権による「リフレ政策期待」がどこまで続くかに注目したい。この2つが機能している間、ランド/円は買われやすい展開が続くそうだが、ただし、どちらか1つでも機能しなくなるようならば、相場は昨年11月中旬以降ほぼ一本調子で上昇してきただけに、利食い売りが優勢となって急落する事も考えられるので注意したい。

一方、南アフリカでは金融政策発表が予定されている。昨年同国で発生したストの影響により第4四半期国内総生産(GDP)の落ち込みが予想される中、昨年12月に発表された消費者物価指数(CPI)が前年比+5.6%と再び南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3～6%)の上限に迫りつつあることから、今回は政策金利を据え置くと見られる。このため、今回は金利発表以上に、その際に発表される声明に市場の関心が集まりそうだが、その中でも、SARBのGDP予測(12年通年:+2.5%、13年:+2.9%)に変化があるか注目したい。もし下方修正が伝えられるようだとランドが弱含む事も考えられるが、インフレ圧力が強まっている中では利下げ余地は限定的と見られ、大きく売られる可能性は低そうだが。(川畑)

(予想レンジ:9.60～11.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/1(火)	12月中国製造業PMI	1/18(金)	第4四半期中国実質GDP
1/2(水)	12月米ISM製造業景況指数		12月中国小売売上高
1/3(木)	12月米ADP全国雇用者数		1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
1/4(金)	12月米雇用統計	1/22(火)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(水)	12月南ア消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表	1/24(木)	12月日通関ベース貿易収支
1/10-13	12月中国貿易収支		1月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
1/10(木)	欧州中銀金融政策発表		南ア政策金利発表
1/11(金)	11月日貿易収支	1/30(水)	第4四半期米GDP・速報値
	12月中国消費者物価指数		米FOMC政策金利発表
1/15(火)	12月米小売売上高	1/31(木)	12月南ア生産者物価指数
1/16(水)	12月南ア実質小売売上高		12月南ア貿易収支
	12月米消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。